



仇
椿
吹
屋
フ
カ
コ
み
て
歯
車

adatsubaki
yugamite
haguruma
fukiya furo
presents

BBC DELUXE
ヒーロー・ミュージック・ドラマチック



第1話

[Citron VOL.15 2012年7月]

003

第2話

[Citron VOL.17 2012年11月]

035

第3話

[Citron VOL.20 2013年5月]

069

第4話

[よみきりCitron 2013Autumn 2013年10月]

105

第5話

[よみきりCitron 2014Autumn 2014年10月]

137

第6話

[よみきりCitron 2015Spring 2015年4月]

199

第7話

[よみきりCitron 2015Autumn 2015年10月]

[BE・BOY GOLD 2016年10月号]

249

第8話

[BE・BOY GOLD 2017年2月号]

299

第9話

[BE・BOY GOLD 2017年4月号]

331

※上記の作品はコミックス収録にあたり、加筆修正しました。

第10話

[描き下ろし]

357

第11話

[描き下ろし]

411

あごがき

[描き下ろし]

433

仇
椿
ゆ
が
み
て
歯
車

も
く
じ

第1話

江戸・寛永期
武芸華やかなりし頃



ある國に一人の劍の名手が居た

名を間宮刀爾郎と申すこの侍
何の因果か藩を抜け
暗殺を生業とする刺客と成り果てた

されど常の刺客に非ず

「地摺じずり」という地を這う劍術を使い
その手際の鮮やかさ故に
畏怖を持って恐れられる凄腕であったという

一時、姿を眩くらまし行方がわからなくなっていたが
現在とはある藩の庇護下に置かれている



仇
椿
め
が
み
て
齒
車

第1話





そう
騒がずとも
聞こえて
おるわ！

やあ、ようやっと
出てきたな

客人を待たす
なんざとんでもねえ
お屋敷だ

…何用だ

用がない
のであれば
帰れ

おまけに戸の
たてつけも悪い
ときてる

貴様が乱暴に
戸を叩くからで
あらうが

待って待って
用なら大有りだ！

あー、えっと
うむ、
ゴホン！

俺は下野国の侍
和田一馬と
申す者

剣術好きが昂じて
剣の道で身を立てる
べく江戸へ修行に参った

何でもここは
剣術名人、間宮
刀爾郎先生の
お屋敷とか…

是非俺を
弟子にして
頂きたい旨
申し伝えてくれ！

—そうか
あいわかった

帰れ

はあ!?

何言つてやが
…あ!閉める
んじやねえや

せめて
間宮先生に
取り次いで
くれよオ!

……

貴様
今何と
申した

へっ?…いや
間宮先生に
取り次いで…

間宮は
私だ



ええと
本物？

くどい！



…あはは
冗談言っちゃ
いけねえ

間宮刀爾郎
といえば稀代の剣の
名手で鬼の間宮と
恐れられた男

アンタみたいな
優男のはず
ねえよ



えっ

この屋敷の主
間宮刀爾郎は
この私だ



信じる
信じないは
好きにしろ

その代わり
貴様の申す
間宮は存在
せぬ



ええ!?

そこを何とか
お頼み申します



そいつは
すまねえ

俺は
てつきり
家来の者かと…

わかったら
帰れ

私は弟子は
取っておらぬ

アンタ館林の
お殿様の所で
剣術指南役に
就いてるって…

だったら
俺にも…

殿には
拾って頂いた
御恩がある

その御恩に
報いておる
のだ

これまでも
幾人かお前の
ような者が
来たが
皆断った

師が欲しければ
他をあたれ

…やる

何？

アンタが弟子に
してくれねえなら
もう終いだ

ここで
切腹して
やる!!

男・一馬^{かずま}
江戸往来にて
いざ果てり!

やあやあ
その道行く人

後々までの語り草^{かたがた}
和田一馬^{かずま}一世一代の
刀さばき



れ……？

篤と
ご覧あ……



頼んます
後生です

この際下郎
でも何でもいい
からお側に
置いて下さい



そんな！
捨て置かなんて
あんまりだア!!

ええい
勝手に入って
くるな！



置いて貰える
なら何でも
致します



母上に
剣を極めるまで
国に帰ってくるな
と言われて

行くあても
ねえんだ

下郎でよいと
申すが、そもそも
貴様に下郎が
勤まるのか？

はい！
そりやもう
人一倍
働きます

何せ
元が貧乏郷土
の三男坊

人に使われる
事には慣れて
います！

…よし
ならば下郎と
して使ってやる

本当
ですか！

して
身元引受人は
あるか

みも…
え？

何ですか
ソレ？

…身元引受人
もないのか

では屋敷に
置くわけには
ゆかぬな

何ぞ！？

どこの馬の骨
とも知れぬ奴を
側に置けるか
…



この刀を貴様の
身元引受人として
預かる事にする

貴様が何か
無礼を働いたら
これで一討た
ひとつうち

よいな

でも旦那、
その刀は俺の…

何だ不服か

下郎に
刀は必要
あるまい

俺の

父上の形見…

よおし
わかった
俺も男だ

その刀で
己が身ひとつ
預けてやろう
じゃねえか！



…なあ
旦那よお

ひとつ
聞きてえん
だが



アンタン所は
化け物屋敷か
何か!?

お前、主^{あて}に
対して何だ
その態度は

化け物屋敷の
主の何を
敬うんです

んん!?

それに俺達
以外に人が
いねえようですが

うむ、私以外
何者も住んで
おらぬ

奉公人や女中も
いないじゃ不便
でしょう

構わぬ

時々館林の
門弟が来ては
世話を焼いて
くれるからな

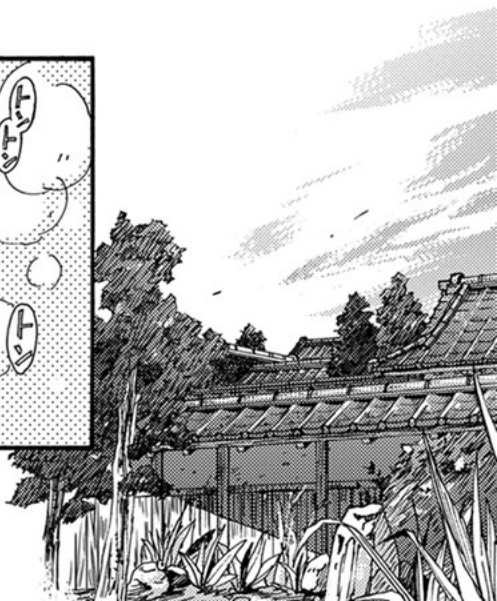
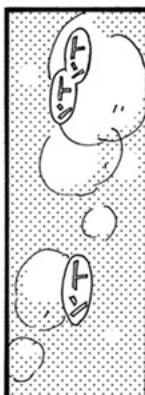
それに
しても
こりゃあ…

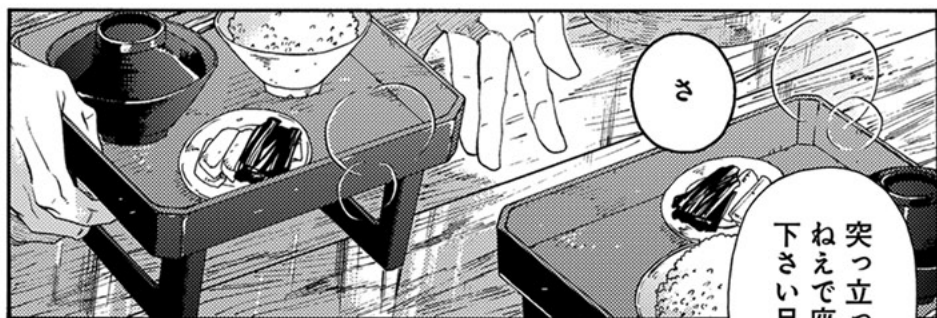
人がいて、
何かの手違いで
斬って
しまったら
どうする

えっ

……

本気なのか
冗談なのか
……





突っ立って
ねえで座って
下さい旦那



うん、
ちゃんと
炊けて
おる

台所も
ピカピカに
磨いておき
ました！



下郎として
当たり前です

...



お前が
作ったのか



旦那、おや
すみなさい

お前は何故
私と枕を
並べて寝る
...!!?



すぐに逃げ出すと
思ったがよく働く

それは
感心な事だ

所で

そりや当然
でしょ旦那

今は下郎の身だが
剣の修行弟子に
なりたくて来て
るんだ



アンタの
一挙手一投足も
見逃すわけに
いかねえ



だからと
申してだな
…ああ
そう云えば



弟子と言うが
これまで剣の修業を
した事はあるのか



えっ？
ええつと…



近所の
神社の杉の木
相手に
打ち込んだ
り…

山を巡っては
猪相手に
勝負を仕掛け
たい

師についた
事は？

ねえです

だから
こうして
間宮先生まみやの
元を訪ねた
次第で



ふん…



素人も同然、
或いは自己流
といった所か…

へへ…



修業…
ああそうだ

旦那の修業
はどういった
もので？

だ

…



？ 何だ

…



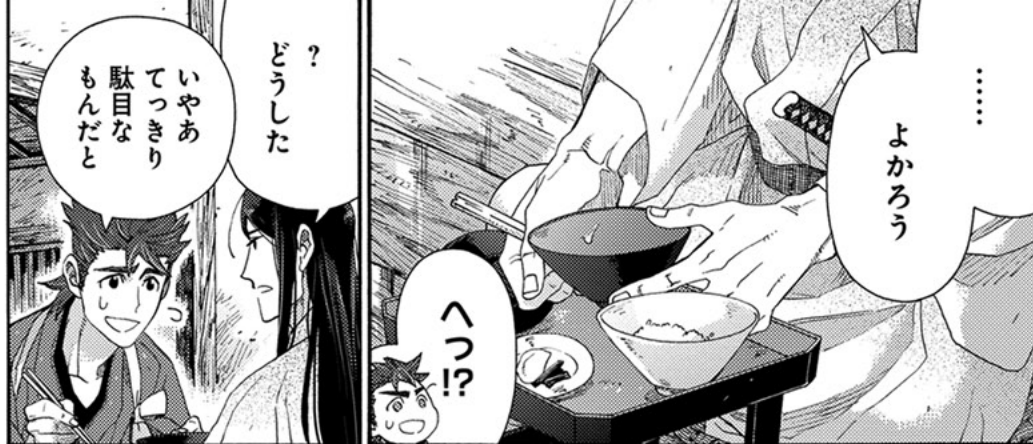
是非俺も
連れて行って
下さい！

決して
邪魔は
致しませぬ



今日はこの後
館林の藩邸に
剣の指南に向かう
事になっておる

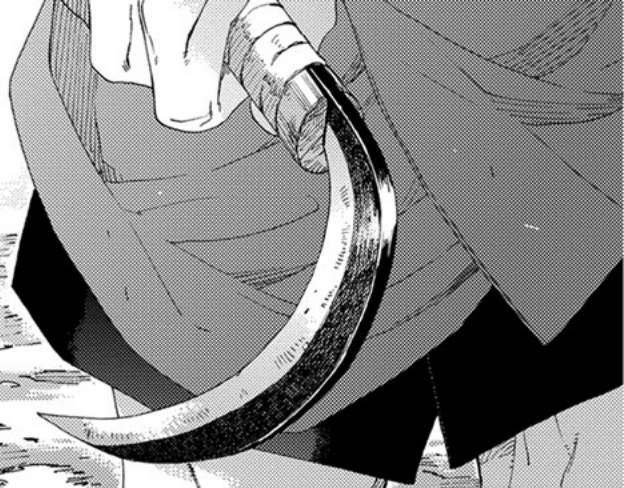
！







——では母上、
行つて参ります



お前も重々
承知であるう

は！



逃げ帰ってくる
ような不様な真似は
許されるものではない
曾我家の恥辱
父上様の無念……



頼みましたよ
雄・進

たとえ辛くとも



憎きは仇の
間宮刀爾郎

必ずや果たして
参ります

父上の仇討ちを——
かたき





…あれは
今度屋敷に
置く事にした
下郎です

ほう、人嫌いの
お主が下郎
を置くか

本来は弟子を
望みましたが
私は弟子を
取りませぬ故…

剣術が好きと
申すので見学ぐらい
ならばと連れて
参りました

ならば
あのような所でなく
もっと近くで見せて
やればよい

ですが
稽古の邪魔に
なっては…

なあに
よいでは
ないか！

では一本

巨那
格好いい！

ちよん
……



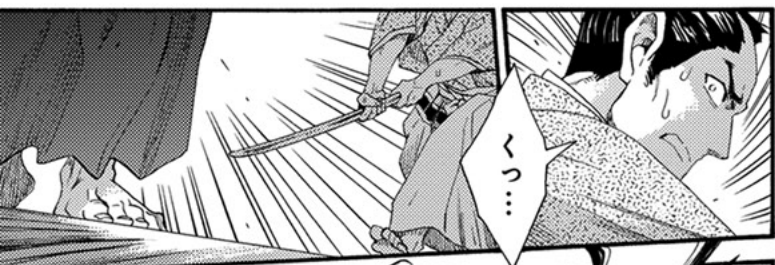
かつて
その仕事の
あまりの伶俐さ
ゆえ鬼と呼ばれ
恐れられた刺客

まみやとじろう
間宮刀爾郎

父上の仇
かたき

その腕前、
見せてもらおう
じゃねえか









全く……
ちいとも間宮の
相手になって
おらぬではないか



速い

隙がない

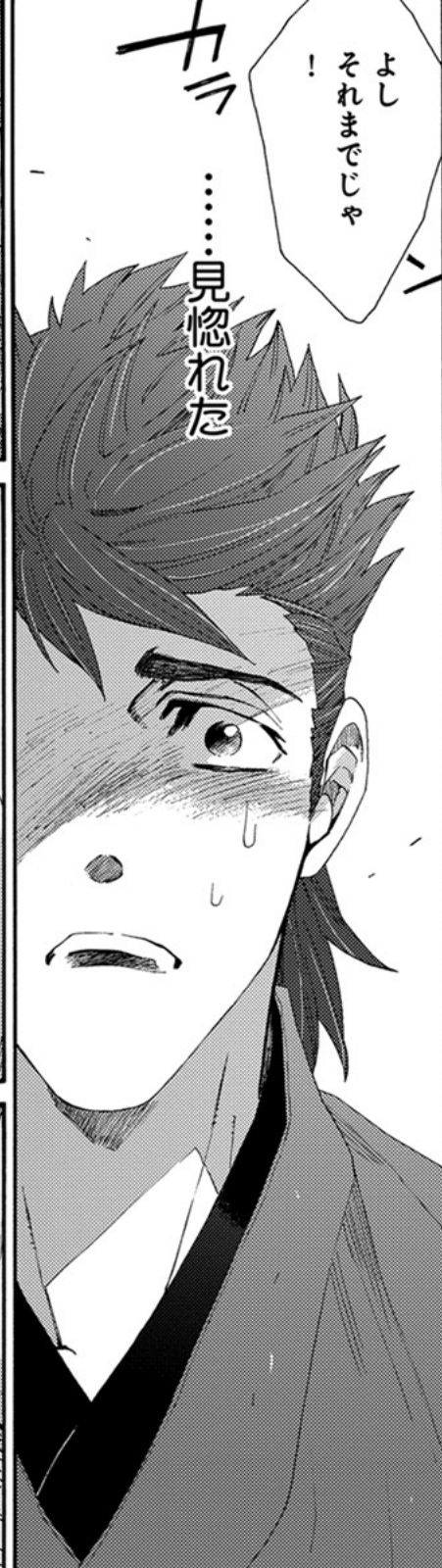
振り下ろした
剣の先にあるはずの
隙がない



俺の見た所
相手もかなり使う

それが齒が立たぬ

恐ろしいのは



よし
それまでじゃ
!

……
見惚れた

これが稽古で
あるという事

はっ

どうした
呆けた顔を
して

評判は聞いて
おりましたが
ちいとばかり
驚きました

間宮先生まみやの
剣を見るのは
初めてか

へい…

うむ。
だが昔は
もっと凄かった
そうぞ

今は随分
腕が
鈍ったと
おっしゃって
いた

へえ

それでも
我々に
とっては
凄まじい
がな

凄まじいが

美しくもある
だろう？



殿がお主と
間宮先生の手合わせ
を所望されておる

へっ!?

弟子入りを
希望するぐらいだから
多少は腕に覚えが
あるのだろう?

…と、殿が
仰せでな

先生相手に
その腕前を見て
みたいそうだ

俺はこの時

ここで仇討ちを
明かすような
事になって良いのか
考えるよりも先に

目の前の仇を
もっと見ていたいと
思っていた

間宮刀爾郎という
男を――



第 2 話



立て、一馬^{かずま}

殿の…

お待ち下さい
まみや
間宮先生!

真右衛門
しんえもん

まずは私と下郎で
試してからでも
遅くないのでは？

殿、いかがで
ござりましょう

下郎ごときに
間宮先生の相手が
勤まると思え
ませぬ

ふむ、まあ
よからう

どうじゃ
まみや
間宮

は

それで
宜しいかと

ほらこれを
使え

聞いていた
だろう一馬、
かすま
出てまいれ

旦那、でも俺は
まだまだ未熟で
...

これも修業と
思えばよい

殿が
お待ちだ
早くしろ

——わかり
ました

何やら
面白い事
になったのう

真右衛門殿は
ウチで三指に
入る腕前

間宮先生の
下郎とやらは…
!

大上段の構えとは
恐れ入るわい

下郎
いいぞー！

わははは……

……

これは
下郎の奴
大きく出たぞ

威勢^{いせい}だけは
一人前だな

私は
いつでも
よいぞ

参れ！

——では



あはは
は...



ふー...

こちら辺で上手く
終わらせねえと



しまった！



弟子の人、
ひとつ
いい塩梅の
一本を...



頼みます！



それまで
!!

あはは
はは！

痛つてえ
え〜!!

下郎相手に
手加減ナシ
ですか

す、すまぬ

つい本気で
打ってしまった

.....

一馬とやら、
ようやった！

中々スジが
良いのでは
ないか？

あ、ありがとう
ございます！

間宮よ気が向けば
あの者に剣を教えて
やるがよい
きつと良い使い手
になるであろう

……さようで
ござりますな

さあ皆の者
余興は終い
じゃ

今の下郎に
負けぬくらい
励めよ

は！



余興で
終わったから
いいものを…

ちくしょう
まだドテツ腹が
痛え

あつ旦那、あそこで
しじみ汁を売ってます

ねえねえ
一杯…

かずま
一馬 お前

何故
嘘をつく？

…へ？
腹は痛えけど
減っているのも
本当で

道場での
手合わせの
事だ

お前は剣術は
自己流だ
何だと申して
おったが

少なくとも
素人では
なからう

何者かに武芸の
教えを受けて
いたはずだ

お前は上半身
のみで剣を打つ
のか？

手は出ずとも
足元は何事かを
成就している者の
動きであった

…今一度
問うぞ

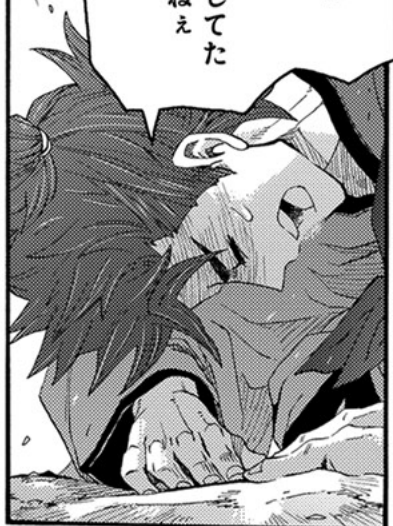
何故
嘘をつくのだ

そのような事は…
試合でも殆ど^{ほとんど}手出し
出来ずじまいでした



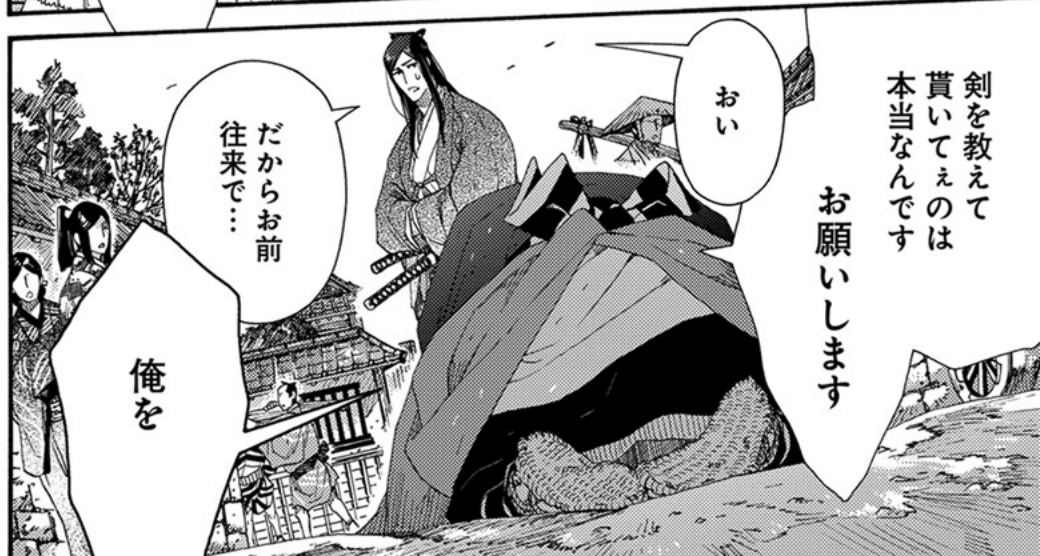
すつすまねえ
旦那！

旦那を騙してた
わけじゃねえ
んだ



ただ：
えっと
もう誰かに
指南を受け
てたんじゃ
まみや
間宮先生は
弟子にして
くれねえと
思っ

だから
…その



剣を教えて
貰いてえのは
本当なんです

お願いします

おい

だからお前
往来で…

俺を



見捨て
ないでえ〜

ああ

帰る所が
ねえのも本当
なんですう〜

すかせておる
のだろう？

しじみ汁でも何でも
買うて参れ

腹を

え



お前を追いつも
りはない

しかしそれなら
そうと早く申せと
いう事だ

旦那…



ほら
さつさと
立て

主人の私に
恥をかかせる
な

旦那っ♥
さすが俺の師匠
と決めた男！

いいから
早く行けと
言うに

……

今のもろろく
嘘だらう

正体はどこの
刺客だらうか
一体どこの……？

はいっ

……
命を狙われる
理由……
あると云えば
ありすぎる。

ム……

旦那の
分も
買って

……？
どうした
んです？





だがまだ動く
わけにはいかねえ

問宮は俺の事を
怪しんでいる



ずっと下郎の
真似事してると



本当の
下郎に
なった
みたいだ



赤トンボ…
もうそんな
季節か



何だ
お前らか

よお
一馬!

はいはい
どちら様
…と



間宮せんせー
は?

旦那なら
まだ
寝て…

あっ
コラ!



折角ここ迄
来たんだ

あせらず
じっくりと…

ドン
ドン
ドン

勝手に
あがる
んじゃ…

わー

せーせー
せーせー
せーせー

……

間宮は時折

付き合ひのある
町家の子供に
剣を教えている

世話になつてゐる
礼なのだそうです

はあ

俺も子供だったら
剣を教えて貰えた
かもなあ

…俺はずっと間宮を
鬼のような男と
聞かされてきたから

調子が狂う

きやあははあはは



鬼のくせに

どこか
寂しそうに
笑うのも
気にかかる

…って
俺は何を
考えてる

ミシミシ…

俺は間宮に
剣を教えて貰っ
フリをして

その剣技の
秘密を探る
為…

とお！



な…

一馬、スキ
ありがとう！

スキも何も
掃除中…

勝負
——ッ！

ああッ





その有様では
とても弟子には
してやれぬな







旦那
走ろう！

ばしゃ



ズブ濡れに
なっちまい
ましたね

…手

え？



ばしゃ
ばしゃ
ばしゃ

うひゃー



わあっ
すみません
無礼を！

ばっ



や…俺が外で
待つと言ったんで
……

そ、それ
よりも



随分冷えて
おるな
外で待たせ
るのでは
なかったか

早くふかねえと
風邪でもひいたら
どうするんです

お前もあまり
身体を冷やすと
...

俺は後で
いいんです
よ

下郎が主人を
気遣うのは
当然ですから

あ

これは別に
弟子になる為の
点数稼ぎとか
じゃねえんで

...

?
どうし
たんです

いや、まだ
弟子を
あきらめて
おらぬのか
と...

ヒッ

...

しかし、何故
私なのだ



その、旦那には
間宮刀爾郎には
「地摺」という秘技
がある、と

誰にも真似の
できぬ…それを
会得したくて



……



え？

弟子の
話だ

世には私より
優れた使い手は
山程いるだろう



……

地摺？
じずり
地摺青眼と
いう構えなら
特に秘技でも
何でも…



何をどう
聞いてきたか
知らぬが
私は秘技など
持たぬし

刀についても
誰も真似ができぬ
のではなく、誰も
真似をしないだけだ



む…

秘技でないとすると
刀の事か？

刀？

へえ…

私の昔の刀を
見ればお前にも
わかる

あの刀は
二度と抜かぬ事
と決めている

まだだ

だ、旦那が
昔使ってた
刀!?

見てえ!
見てみたい
です!!

…それは
できぬ

あ

またこうやって
寂しそうに…

ほれ

は

わ

すっ

お前も
はよ
早うふけ

風邪を
ひくぞ

旦那

はい…

旦那がもつて
本当の鬼のよう
だったら
良かったのに

そうしたら
俺は

旦那、これ
どうぞ！

何の迷いもなく
鬼退治ができるのに



…どうした
突然

これ、旦那に
あげます！

その花を？
何故…

だって旦那



時々
寂しそうに
笑うでしょ

今だって
そうだ

これが
ちつとは
慰めに
なれば…

寂しそう？



わけの
わからぬ
事を…

…



…うん？

何だ…？



前にも同じ
様な事が

あった

ゆづな…



…何の
つもりだ

へへ

旦那は俺の
手が冷たいって
言っていました
けど

旦那の手の方が
冷たいじや
ないですか

あんまり優しく
されると俺

困っちゃう…

—何だ？

何故こんなに
胸が騒ぐ…？

サ
ア
ア
ア



絶つっつ対、

おかしいです
よねえ!?

廓の男が、女は
風邪をひいたって
言うから俺はその
見舞いに行つて
やろうとしたんです

そしたら
「実は女は
死んじゃって」
なんて言われて

そりやお前
完全に女に
嫌われたな

だから次は
墓参りさせろと
言つてやる
つもりです

ムッ

……

おい
あれ……

何です
か?

間宮先生の
所の下郎じや
ないか?

ええ?

手ぬぐいで
顔をおおつて
はいるが

間違い
ない

俺は一度
剣を交えた
相手は忘れん

下郎のくせに
廓に女を買い
に!?

いや…

とうに
廓の通りは
抜けている
だろう

そして
間宮先生の
屋敷とは逆方向
に進んでいる

いいや、きっと女
です! 後を尾けて
先生に密告して
やりましょう!

密告って
お前なあ

道はよく
わかつている
ようだな

しかし
気になるのは
この先…

橋を渡ると
城の南、外桜田
だぞ

とぎまじりこう
外様諸侯が屋敷を
構えている所だ



さ、早う
中に入り
なされ

酒と馳走を
用意させて
ある

儂らに
出来る事は
これぐらい
ですからな

かたじけ
のうござり
まする

…早く間宮先生
に知らせた方が
よさそうだな

これは…



かずま
一馬か？

酒だか味噌が
切れたから買いに
行くと出て行ったぞ

……

かずま
一馬が
どうした

……どうい
う
事だ

だって我々
見たん
ですよ！

それが……

先生、
あの者は
本当に只の
下郎ですか

あの下郎が
秋月藩の
屋敷に入っ
て行くのを

たった今
の話です！



裏口で
何者かと
話をして…



そのまま屋敷に
入っていきました



隣の屋敷の
門番に、どの
屋敷か聞いた
ので間違い
ありません



あきづき
秋月藩の
屋敷です

直接尋ねて
みようと
思いました

おそらく
門前払いで
終わらだろうと

秋月藩では以前
お家取り潰しの
騒動がありました

その人間が
身元を偽って
先生に仕えて
いるのであれば…



…先生？

どうなされ
たのです

まさか



——その亡霊は
ざりざり、ざりざりと
刃を引きずって歩くそうなの



父は
どうやら
謀反を
企てて
いたらしい



日頃から藩内での
剣の覚えめでたく
剣術指南役から
赦免の申し出もあり

自分も当然
同じ運命を
辿るはず
だったか



命だけは
許された

その代わり
髪を落とされ
裸同然で
国から追放



大逆中の大逆ゆえ
一族郎党死罪と
なり

父と母は打首の上
河原に晒された

親を失い
国を失い

この際は
追い腹切って
死ぬしかない
と思っただ
切る刃もない





「埋めておいた
からな」

「は？」

「我が間宮^{まみや}の家に伝わる
朱鞘^{しゅさや}の名刀^{めいとう}あれを
墓^{はか}に埋めておいた」



「刀爾郎^{とうにろう}」



「父上、何故
そのような
事…」



「夜になるのを待つて
秘かに国に戻り
墓を掘った」

「そこだけ土が
新しかったので
すぐにわかった」



「今思えば
あの時父は既に
死を覚悟していた
のだと思う」







命が惜しく
なったか
鉄ッ気
に
あてられたか
:

気付くと
刀を持って
走り出して
いた

それからは
刀ひとつで身を立て
生きた



道場破りに
人斬り
蓬髪で剣の腕
だけはやたら立つ
どこの誰とも知れぬ
自分は都合がいいらしく



暗殺の依頼が
舞い込むように
なった



当然刃はボロボロになり
それをそのまま研いで
使う



剣の作法も
何もなく
ただただ
斬るのみ

回りに
木や壁が
あっても
構わず振る



刃と同じくボロボロな
自分はさぞ滑稽に
映ったと思う





うむ
秋月藩城付きの
侍所番頭だ

この仕事、引き
受けて頂けるか

：承知
致した

して期日は？

何だ？

いやなに、
仔細尋ねぬのか
と思うてな



お主らの
事情を知った
所で仕事内容
は変わらぬ

私も私の
やり方で
好きに
やらせて
頂く

う、うむ
よろしく
お頼み申す



：それはそうと
貴殿、タチの
悪い剣を
使うそうじゃな

？

貴殿に斬られた
者は酷い有様と
聞くぞ

肉はズタズタに
裂け、切り口は
まるで鋸でひいた
ようだ...

一体どのような
剣術を使うのか
不思議に思うて
おる

：私のやり方が
気に入らぬのなら
他をあたれ



いやすまぬ、
そういうつもりで
申したのではない

仕事の件は
重ねて頼む

期日は…
そうだな



藩の騒動
にでも
巻き込ま
れたか
私の父と
同じく
運のない
男だ



そつだ

そうやって
いつも通り
仕事を終える
はずだったのだ

もう、
タケオ様
ったら！

勝手に
召し上がらない
で下さい！

……



そがぶゆう
曾我武雄…

あきづき
秋月の殿様が
お亡くなりになる迄、
とでもしておくか





急にお粥は
無理かしら

白湯でも
持つて参り
ましょう

そうして
やれ

…な、何が

こころは…

ん？お前
覚えておらぬ
のか？

？

ほれ、山の社で
何やら多勢と
やりあつて
おつただろう

俺とお・う・が
散歩で通り
かかつて
おらなんだら…

…あ

そつだ
確か
こちらに
着いてすぐ
社で寝て
いたら

喝喰ぐずれが、
何故そのように
見事な朱鞘を
携えておる

大方
盗品であろう

オイ
貴様

どうなのじゃ







…あと身体と
同じくらい刀も
酷い有様じゃ

一体どんな
扱いをして
きた？
あのように…



ガタガタの刃^はを
研師に見て
貰うたがな

研^{とぎ}ぐらいでは
どうにもならぬと
言われてなあ

え…？



…お前のあの刀、
どうもいかん

俺は剣相見では
ないが性質^ちの
良くない刀じゃ



か、刀！

そうだ
私の刀は
どこに…

あつ
おい！



…
安静に
しておけと
言うた
ろう

それだな…その、
勝手にすまん！



こりやもう
鍛え直すしか
なからうと
鍛え直して鋼から
なからうと

城お抱えの
刀師の所へ
持っていった！



貴様
私の刀を
鍛え直した
と申すか！





全く
しくじった！

しくじった！



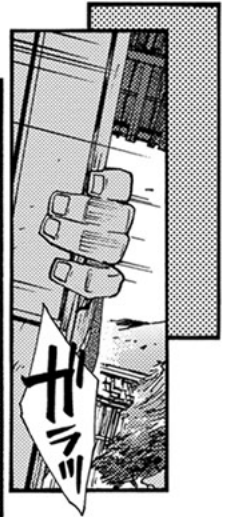
もう起きて
食えるように
なったのだな

よし
よし！

次来る時は
猪肉を持って
きてやろう



とおお
と刀
爾！



刀を
錆潰した
負い目か
あるのか

足繁く私の所へ
通ってきては
何かと世話を焼く

あら

ならば饅頭
でもふかして
：



やだタケオ様、
猪肉はさすがに
まだ無理よ

そうか？

このタケオとか
いう男――

最近タケオ様
たら、刀爾さん
ばかり！

それとも単に妾の
所へ通う口実か

私には何もない
のかしら

勿論
お前の分も
持ってくる！

怒ったのか
おりうよ

まあ、私には
どうでもいい

ふふふ
冗談です
怒ってなど
おりませぬ

でも早く
刀爾さんに元気に
なって貰わないと
ふられそう

何を言う
お前が俺をふる
事はあっても
その逆はないぞ

…ではな

行つて
参る

刀爾
養生
しろよ

行つて
らっしゃい
ませ

タケオ
は――

城の人間
なのか？

ええそうよ
言つてなかった
かしら

貴方は呼び捨て
なんてしてるけど
とても偉い御方
なのよ

偉い：

とてもそうは
思えぬが

そうね
でもその偉さ
をおくびにも
出さない

立派な御方

代々秋月藩で
侍所の番頭を務めて
おいでのお家柄よ

…え？

ふふ
驚いた？
曽我家の方
なの

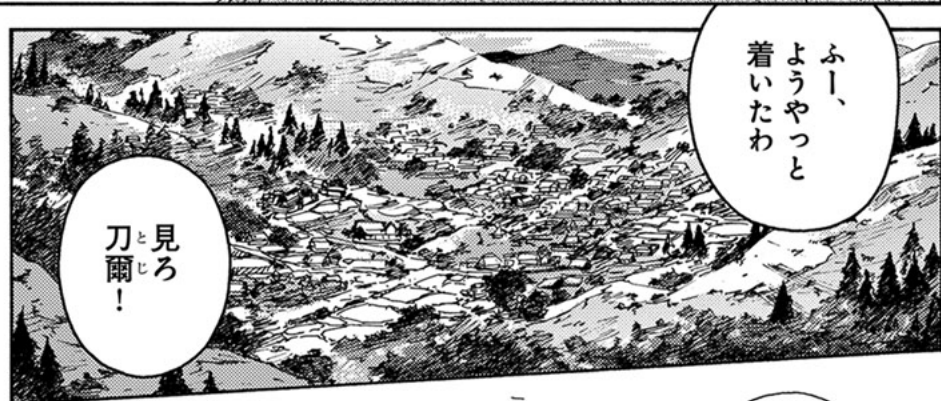
な、名は
タケオと

ええ

曽我武雄
蔵人様

近しい人は皆
「武雄」様と
呼ぶけれど

なんと！



家で寝たきりでなく、たまには
こうやって外の
空気を吸わんとな

治る怪我も
治らぬからのう

…世話を
かけるな
すまぬ

俺が好きで
やっておるのに
何を謝る！

ならば
有難う

重くは
ないか？

なんの
なんの！

たまにおりうの
奴をこうやって
おぶって登るのよ

おりうの方が
お前より重い

りう殿が
聞いたら
怒るぞ

……

…ようやく
笑ってくれたな

刀の事は
本当に
悪かった

許しては
くれぬと
思うが

……

たけお
武雄は

私の事を
聞かぬのだな

何故私が汚い
喝喰のごとき
身なりで
あったのか

なのに何故
立派な朱鞘を
差していたのか

聞けと言う
のならば
聞くが
聞いて
欲しいのか？

何故

いや…

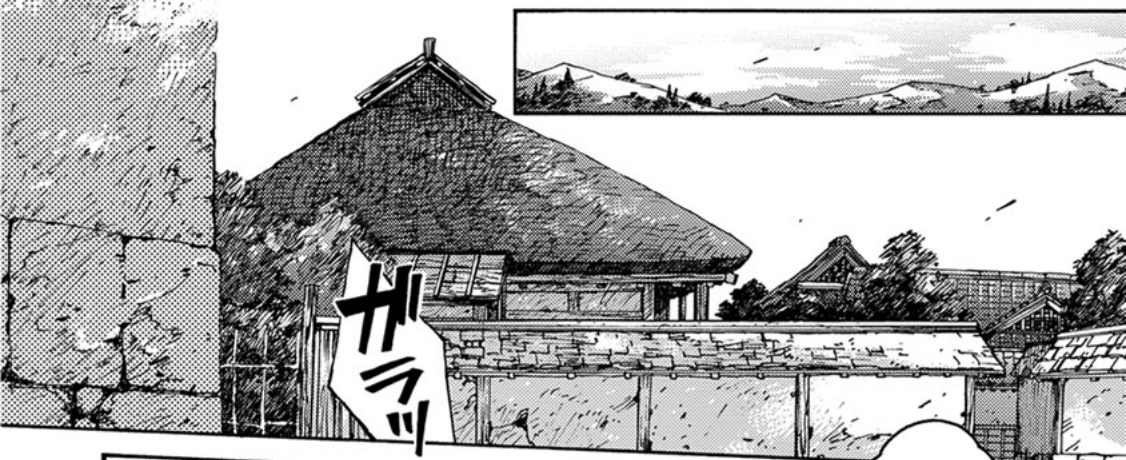
秋月藩に
来たのか

ふむ

聞いた所で
面白うもない
身の上だ

まあ話したく
なったら話せ

俺も
聞かん





もう身体も
動くので
あるう？



うむ
俺の息子が
使っていた
木剣じゃ

この度新しい物を
こしらえたのだな

お下がり
で
悪いが
使え



…何故

いい
太刀筋
だな



何だ
氣に
入らぬのか？

お前、城で
女だけでなく男も
囲っていると噂に
なっていると聞くぞ



只のお人好しか

単なる
馬鹿か



おっ

わはは！刀爾^{とじ}、
お前そんな事を
気にし取るのか

俺の方は
いつでもお前を
囲う準備は
できておると
いうのに！

え

まあ

その木剣は
好きに使い

では城へ
戻る

時々視線を
感じては

自分を
見つめている
武雄^{たけお}と
目が合った

それからいつもの

その目の意味が
分からぬ程
私は幼くもなく

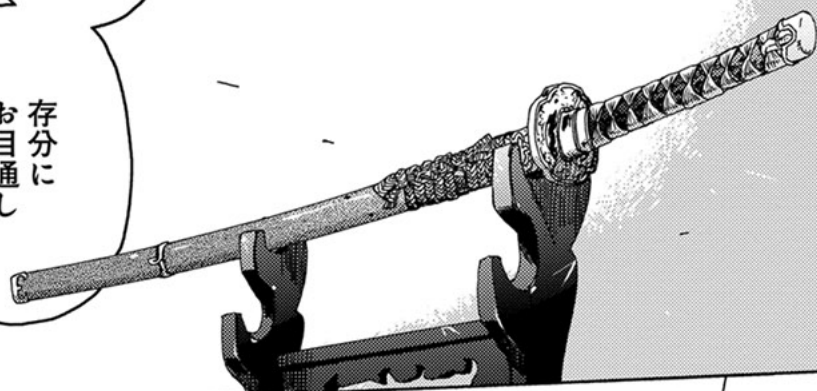
……



そして

こちらに
ござります

存分に
お目通し
下されい



ほら刀とじ爾

抜いてみよ

このように美事みごとな
朱鞘に収める刀を
作らせて頂けるとは
思いませんでした

光栄に
ござりました

……

…ほう!

すっ
らっ







それは…

ぐ
い
っ

随分髪が
伸びたな

もう
結えるのでは
ないか？

いつまでも
喝喰でおらずとも
よからう

お前も
気付いて
おろうが

言うて
おくぞ

何を
呆けて
おる

ふ

……





ははは！
逃げる
なら
今の内
じゃあ！





何じや
外におった
のか

…りう殿が
おらぬ

そうだな
仕事仲間の寄り
合いか、遊びに
でも行ったか…

まあ

あれは
勘の働く
女よ

うむ

今宵の月は
また格別じや



私が刺客だと、
お前を斬りに来た
のだと

気付いて――

そうか

俺もお前に
言っておらぬ事
はたくさん
あるぞ

茄子の煮付けが
好きとか、本妻は
二ツ年上とか

お前を初めて
可愛く思った
のは、おりうから
粥を食べさせて
貰っているのを
見た時、とかな

馬鹿者！

刀とじ爾

そなたの肌
月明かりに
照らされて

